

# 変見自在

へんけんじざい

## 高山正之

### 忘恩のユダヤ人

憲法記念日の天声人語は  
ベアテ・シロタを取り上げ  
ていた。

彼女は新憲法草案に「女  
性差別」を禁じる1項を加  
え、結婚は「両性の合意に  
基づき妻は夫と同じ権利を  
持つ」と明記して「不幸な  
日本の女たちを救った」と  
紹介する。

このコラムの悪いところ  
は何の取材もしないことだ。  
このくだりもベアテの自伝  
からそっくり引用した。

彼女の評判についても、  
GHQが日本の新聞に一切  
の真実を書かせなかったこ  
ろに押し付けたイメージを  
ただなぞっているだけだ。  
しかし戦後70年の間には  
多くの疑問も生まれた。天

声人語はそういう新事実  
一切触れていない。ホント  
はどんな女なのか。

ベアテはユダヤ系ウクラ  
イナ人の音楽家レオ・シロ  
タの娘として1923年に  
生まれた。

ウクライナのユダヤ人と  
言えば「屋根の上のバイオ  
リン弾き」が思い浮ぶ。

スラブ人による略奪と虐  
殺の嵐、ポグロムに耐えき  
れず国を逃げ出した牛乳屋  
テヴィエ家の物語だ。

シロタ家と同じ。彼らは  
ウィーンに逃れるが、そこ  
で待っていたのはナチの脅  
威だった。

安住の地を求めるシロタ  
は満洲で山田耕筈に会って  
ユダヤ人差別のない日本へ

移り住むことを決めた。

このときベアテは5歳。  
白人アシケナージを鼻  
にかけて、1939年中学を

出ると「米国の高校に留学  
したい」と駄々をこねた。  
しかし当時のユダヤ人の

環境はもつと悪化していた。  
その前年、ナチのユダヤ

人迫害を心配した欧米諸国  
の代表がユダヤ人難民の受  
け入れについて仏エビアン  
で会議を開いた。

ただ米大統領ルーズベル  
ト(FDR)はごく冷淡で  
会議には全権代表すら送ら  
なかった。会議もその雰囲気

を受け、受け入れ国はゼ  
ロに終わった。

半年後、ナチの弾圧を逃  
れようと937人のユダヤ  
人が独客船セントルイス号  
でハンブルクからキューバ  
に向かった。

しかし米保護国のキュー  
バは土壇場で上陸を拒んだ。  
FDRの意向だった。

FDRは「母校ハーバ  
ード大からユダヤ大学生を締  
め出そうとまでした」(米  
史家R・メドフ)ほどのユ

ダヤ人嫌いだった。

行き場を失ったセントル  
イス号は欧州に戻る。  
乗客は仏、蘭などに上陸

を赦されたが、そこもやが  
てナチに占領され、乗客の  
多くはアウシュビッツに送  
られて殺された。FDRの

偏見は強かった。  
そういう時期、ベアテは

米国に行きたいと言った。  
関係筋はFDRのいる限  
り諦めると言った。

ただレオと娘にはいい知  
人がいた。近所に住む元首  
相の広田弘毅だ。

彼はベアテをとても可愛  
がっていた。そして大団日  
本の大政治家のおかげで彼

女は奇跡的にビザを得て、  
オークランドのミルズ・カ  
レッジへ留学が決まった。  
2年後、日米は開戦する。

ベアテはあれほど嫌った  
日本人と日本語に通曉して  
いたことが幸いし米政府の

戦争情報局に入れた。  
戦後はGHQ民政局の一  
員として父母の待つ日本に  
戻ってきた。  
最初の仕事は日本を滅ぼ

すためのマッカーサー憲法  
草案作りだった。

高校しか出ていない、無  
教養な女には人権の項目が  
任された。何も思いつかな

いからソ連の憲法のその辺  
をコピーして1週間で作  
り上げた。

滅びの憲法だから、その  
程度の中身でも十分だった。

同じ時期、市谷では東京  
裁判が始まり、彼女に留学  
の機会を作ってくれた大恩  
人、広田弘毅がA級戦犯と  
して裁かれていた。

彼女が真人間なら助命を  
語っただろう。父レオも固  
際社会が背を向ける中で多  
くのユダヤ人を受け入れた

日本人の高い人道性を法廷  
で証言しただろう。

しかし日本に救われた父  
娘は最後まで感謝の言葉も  
なく、広田の死刑にも目を  
つぶったままだった。

その代わりベアテは「日  
本は女の権利を認めない後  
進国」と生涯触れ歩いた。

恩を忘れたユダヤ人一家  
を偽りで飾り立てて何の意  
味があるのか。